

# 商工業

## 心の通い合う商店街づくりを。 川南の特性活かした企業立地も。

約百八十店舗に、千人ほどが働き、年間二百八十億円を売り上げている——平成十二年の『商業統計』から、川南のこんな小売業の横顔が見えてくる。飲食店のほうは六十店余りに従業員が約二百人という規模。これらの数字は、前回調査の平成九年に比べると軒並みアップしており、町の商圏拡大を物語っている。

そんななか、中心市街地をもっと活発にしようと、トロントロン商店街ではさまざまな試みをスタートさせている。たとえば、毎年夏の恒例となった「トロントロン土曜夜市」。「子供たちが家族といっしょに街に来て、夏休みのいい思い出をつ

くり、故郷を好きになる一助になればいい」(川南町商工会)と、始まったこのイベントは、夏休みに入った土曜日に三週程度続けて開催される。歩行者天国となった会場にステージを組んで、色々な催しが行われたり、かき氷などの出店も並んで、子供たちは大喜び。もちろん商店街も夜十時まで



営業する。平成十三年から始まった「全国商店街めぐり」も大好評。北は北海道の鮭トバから、南は沖縄のちんすこうまで、全国の味が集まる。秋田県の吟醸酒、長野県の野沢菜、香川県の讃岐うどんなど、ズラリ並んだ全国のおいしいもの。「川南合衆国」といわれるだけに、自分の故郷の名物を楽しんでもらおうと始まった



ものだ。そのほか毎年十二月から一月のイルミネーションも、商店街は見事な夜景を演出している。

こんな風にイベントで街に足を運んでもらい、楽しみながら、安心して買い物できる環境であることを知ってもらうことは大いに意義がある。心の通い合う商店街を目指している。工業のほうはどんな姿だろうか。ひと言でいうなら川南ら

しさが活かせる企業が目立つ。川南町には県内でも有数の塩付工業団地がある。この工業団地に、地元野菜をジュースに加工する「宮崎農協果汁」やプロイラーを扱う食肉加工製造の「児湯食鳥」、卵加工品製造の「カネイワ食品宮崎工場」、茶製造の「尾鈴農業協同組合製茶工場」のほか、電子部品である音叉型水晶振動子製造の「大真空宮崎工場」やレンジコンクリート製造の「ヤマウREC工場」など、十三社が操業する。平成十二年の『工業統計』によれば、三十七の事業所があり、従業員数が約千三百人、出荷額が約四百億円となっている。バブル崩壊後、下降気味だった設備投資意欲もようやく向上きしつつあり、これからの企業活動に期待される。東九州自動車道の整備着工にともない、川南の優位性が高まると高ま

